

大阪府感染症情報センターでは国立感染症研究所が配信している梅毒の国内発生状況分析情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrs/7816-syphilis-data.html>) を参考に、大阪府内における梅毒症例の動向について四半期毎の推移をまとめたものを 2022 年第 1 四半期より四半期毎に配信させていただいております

大阪府内で感染症発生動向調査によって届け出られた梅毒の概要

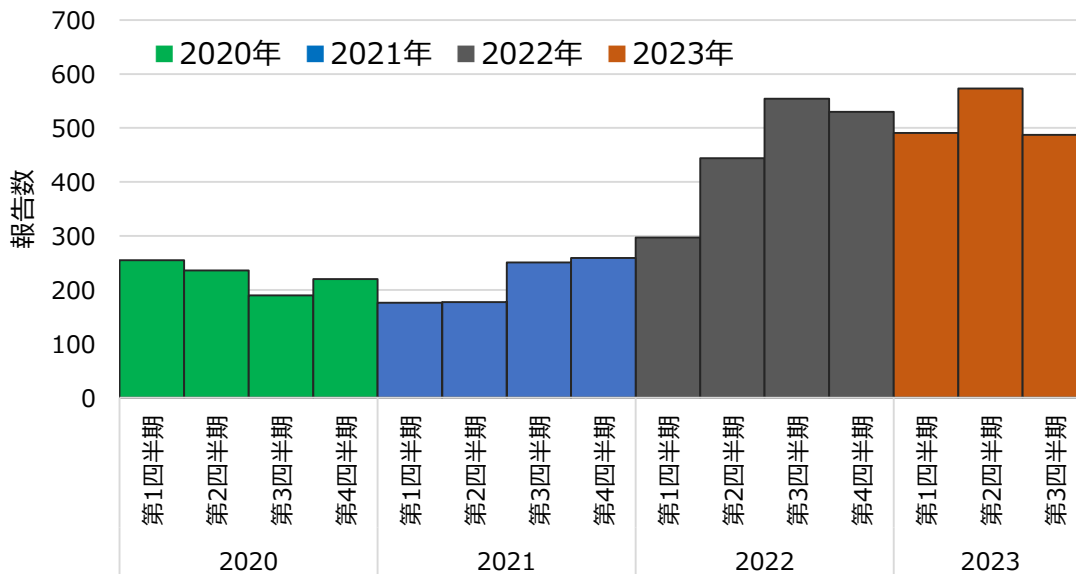
2023 年 10 月 16 日現在

2022 年第 3 四半期から 2023 年第 3 四半期は、以下の週に該当する

- ・ 2022 年第 3 四半期：第 27 週~39 週 (2022 年 7 月 4 日~2022 年 10 月 2 日)
- ・ 2022 年第 4 四半期：第 40 週~52 週 (2022 年 10 月 3 日~2023 年 1 月 1 日)
- ・ 2023 年第 1 四半期：第 1 週~13 週 (2023 年 1 月 2 日~2023 年 4 月 2 日)
- ・ 2023 年第 2 四半期：第 14 週~26 週 (2023 年 4 月 3 日~2023 年 7 月 2 日)
- ・ 2023 年第 3 四半期：第 27 週~39 週 (2023 年 7 月 3 日~2023 年 10 月 1 日)

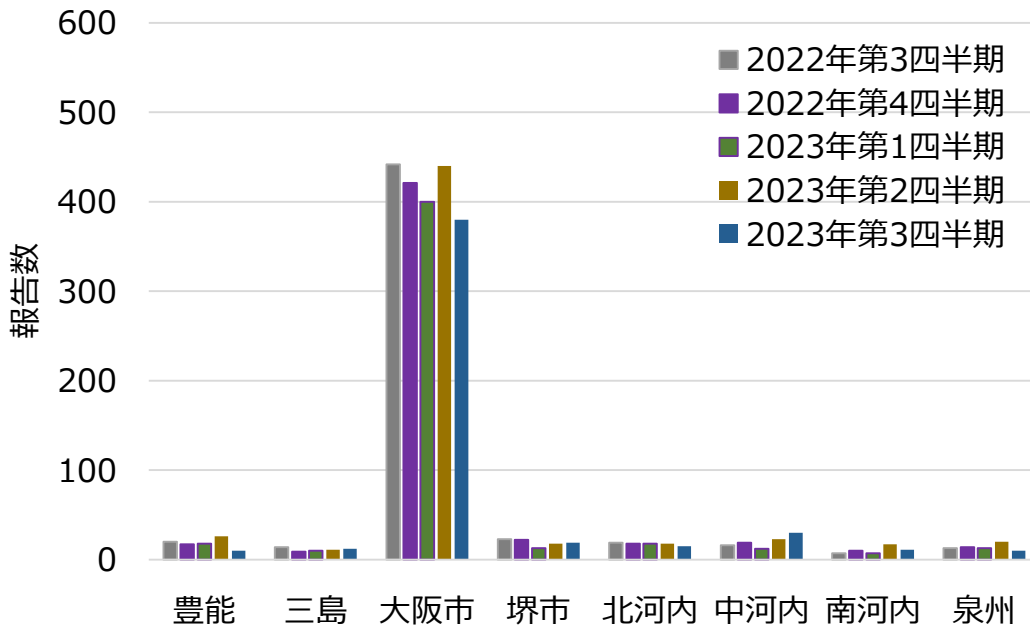
注) 2023 年第 39 週(2023 年 10 月 1 日)までに診断されていても 2023 年 10 月 16 日以降に届け出のあった報告は含まない。

図 1 大阪府内における梅毒報告数



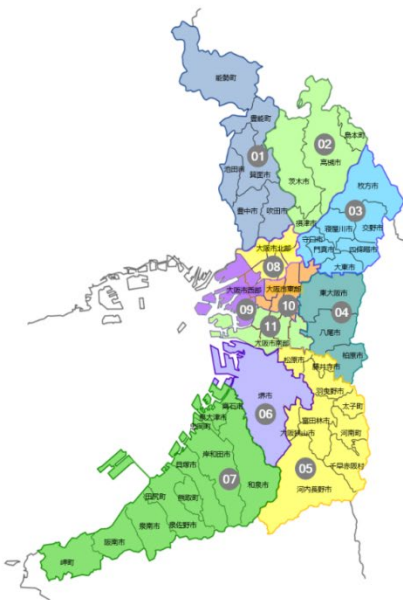
- 2023 年第 2 四半期は増加に転じ、2022 年第 3 四半期を上回る報告数となったが、2023 年第 3 四半期は 2023 年第 2 四半期に比較し報告数が 15%減少し、現時点で 500 例を下回っている。遅れ報告があることから、特に直近の報告数は今後変動する可能性がある。

図2 ブロック別報告数



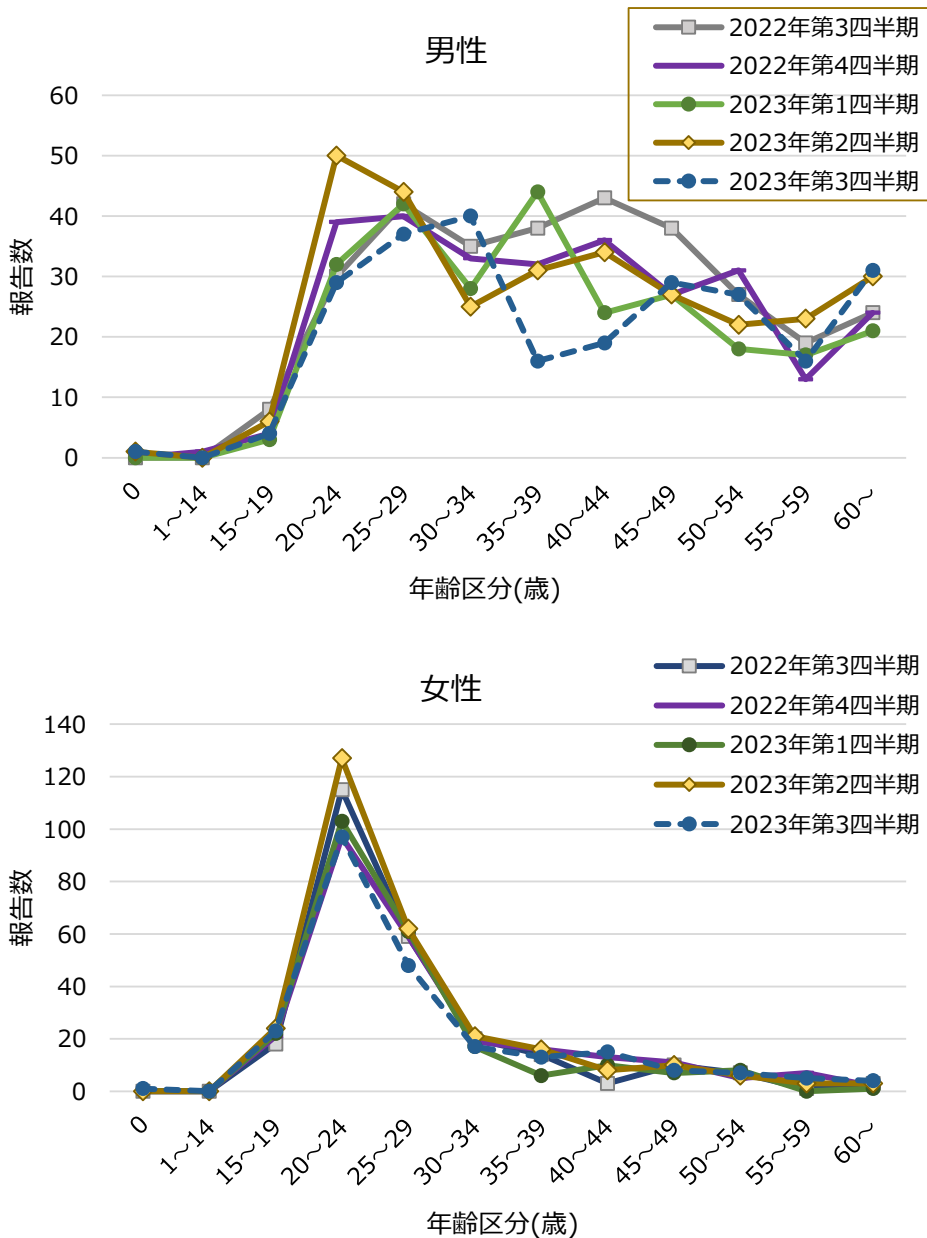
- 四半期毎の報告数は全ての期間において大阪市医療圏で最も多い。2023年第3四半期は5ブロックで、2023年第2四半期と比較し報告数が減少した。

【参考】 感染症発生動向調査ブロック分け (<http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/block1.html>)



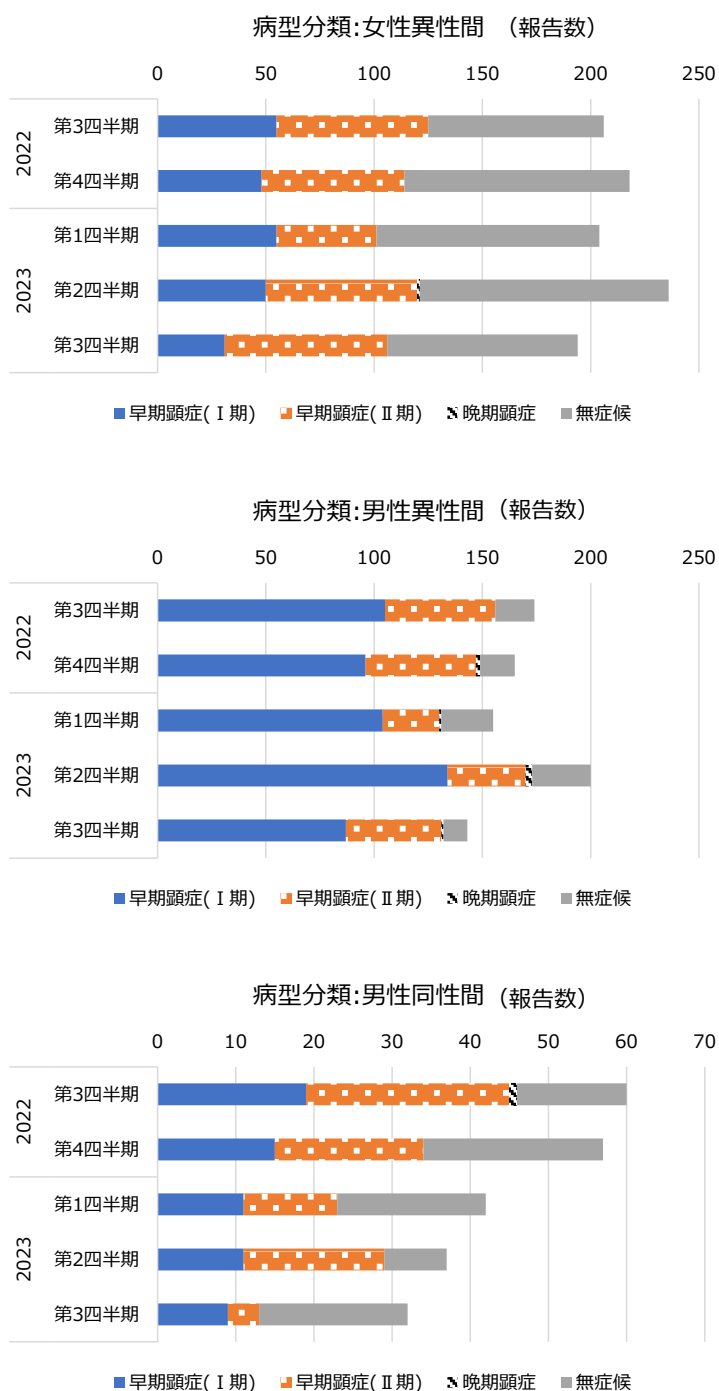
ブロック	市町村区分：所管区域	所管保健所
01 豊能	豊中市	豊中市保健所
	池田市、箕面市、能勢町、豊能町	池田保健所
	吹田市	吹田市保健所
02 三島	高槻市	高槻市保健所
	茨木市、摂津市、島本町	茨木保健所
03 北河内	枚方市	枚方市保健所
	寝屋川市	寝屋川市保健所
	守口市、門真市	守口保健所
	四條畷市、大東市、交野市	四條畷保健所
04 中河内	東大阪市	東大阪市保健所
	八尾市	八尾市保健所
	柏原市	藤井寺保健所
05 南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市	藤井寺保健所
	富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村	富田林保健所
06 堺市	堺市	堺市保健所
07 泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町	和泉保健所
	岸和田市、貝塚市	岸和田保健所
	泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、熊取町、岬町	泉佐野保健所
08 大阪市 北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	大阪市保健所
09 大阪市 西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	
10 大阪市 東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	
11 大阪市 南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	

図3 性別年齢分布



- 2023年第3四半期は、男性では最も報告数が多い年齢区分は30～34歳で、次いで25～29歳が多かった。20歳代～40歳代で、男性全体の68%を占めた。
- 男性では、最も報告数の多い年齢区分が20代前半～40代前半の年齢区分の間で、四半期毎に入れ替わっている状況である。
- 2023年第3四半期は、女性では引き続き20～24歳で最も多く、次いで25～29歳が多かった。20歳代の割合は女性全体の61%を占めた。また10歳代後半の割合は女性全体の10%を占めている。
- 全期間を通じ20～40歳代の男性および20歳代の女性で特に報告数が多いことから、妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、必要に応じた積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられた。
- 男女ともに20歳代の報告数が多いことから、10歳代の若者が性感染症に関する知識を得る予防啓発の機会を増やすことが重要な対策の一つになると考えられた。

図4 性的接触歴別、病型の内訳



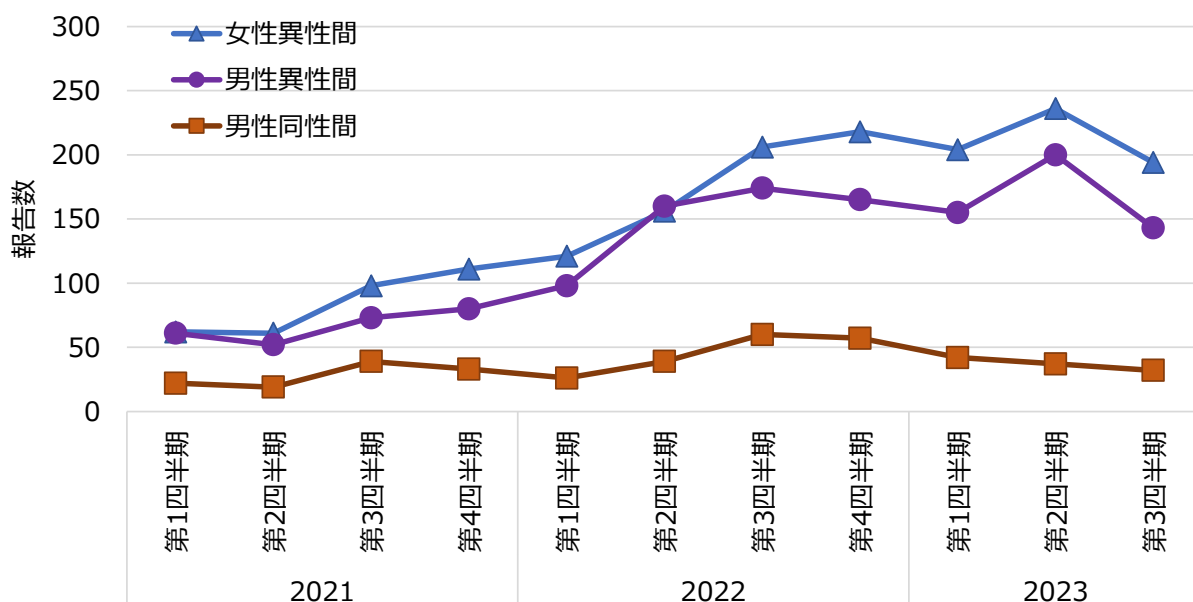
- 2023年第3四半期は無症候での届出の占める割合が女性異性間で45% (88例)、男性異性間で8% (11例)、男性同性間で59% (19例)と、2023年第2四半期と比較しそれぞれ4%減少、6%減少、37%増加した。一方で、早期顕症(II期)の届出の占める割合が女性異性間で39% (75例)、男性異性間で31% (44例)と、2023年第2四半期と比較しそれぞれ9%、13%増加した。
- 全期間を通じて女性異性間は無症候での届出の割合が高く、一方で男性異性間は無症候での届出の割合が低い。女性は自発的検査あるいは医師の検査勧奨や妊婦健診など、検診目的の検査で感染が

判明している可能性が考えられ、男性は、梅毒の症状を自認した患者の受診によつての診断が大部分を占め、自発的な検診による無症候性梅毒の検出・診断が少なくなっているものと考えられた。

- 男性同性間は男性異性間と比較し無症候で届出される割合が高いことから、受検意識の高さや検診目的の検査による判明が多い可能性がある。そのことから引き続き、同性間性的接触歴のある者への十分な検査機会を確保することが重要である。
- 梅毒の流行を抑えるには、予防啓発はもちろんのことだが、それに加えて自発的な梅毒検査受検率のさらなる向上が必要である。特に感染の可能性の高い、頻繁に異性間性的接触を行う男性へ、働きながらも受検しやすい梅毒検査環境を提供するなど、積極的な受検を促し、無症候の感染者の診断と治療による介入を行うことが重要であると考えられた。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

図5 性的接触歴別報告数推移



- 2023年第3四半期と第2四半期を比較すると、女性の異性間性的接触歴のある報告数は18%減少、男性の異性間性的接触歴のある報告数は29%減少、同性間性的接触歴のある報告例は14%減少した。女性の異性間性的接触歴のある報告数、および男性の異性間性的接触歴のある報告数が2022年第2四半期に150例を超えて以降、それぞれ高い水準で推移している。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

表1 直近6か月以内の性別性風俗産業の従事歴および利用歴

男性		2022年第3四半期	2022年第4四半期	2023年第1四半期	2023年第2四半期	2023年第3四半期
従事歴	あり	9 3%	8 3%	5 2%	10 3%	8 3%
	なし	173 57%	167 60%	168 66%	184 63%	142 57%
	不明	93 31%	70 25%	56 22%	74 25%	76 31%
	空欄	29 10%	35 13%	27 11%	25 9%	23 9%
	計	304	280	256	293	249
男性		2022年第3四半期	2022年第4四半期	2023年第1四半期	2023年第2四半期	2023年第3四半期
利用歴	あり	88 29%	90 32%	85 33%	93 32%	83 33%
	なし	102 34%	102 36%	91 36%	106 36%	71 29%
	不明	89 29%	62 22%	58 23%	70 24%	74 30%
	空欄	25 8%	27 10%	22 9%	24 8%	21 8%
	計	304	281	256	293	249

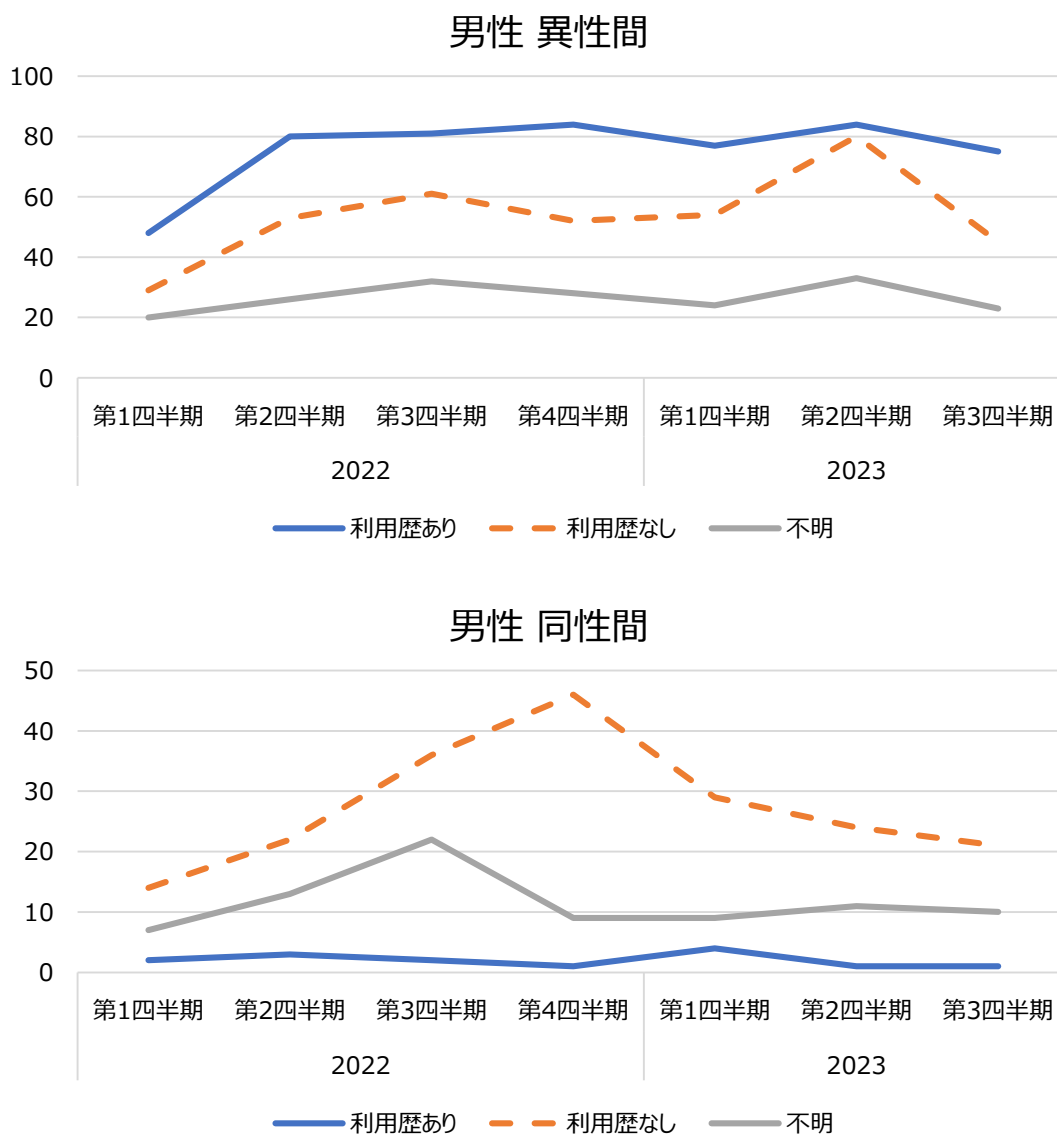
女性		2022年第3四半期	2022年第4四半期	2023年第1四半期	2023年第2四半期	2023年第3四半期
従事歴	あり	138 55%	141 56%	136 58%	157 56%	131 55%
	なし	36 14%	42 17%	39 17%	52 19%	36 15%
	不明	53 21%	49 20%	44 19%	53 19%	56 24%
	空欄	23 9%	18 7%	16 7%	18 6%	15 6%
	計	250	250	235	280	238
女性		2022年第3四半期	2022年第4四半期	2023年第1四半期	2023年第1四半期	2023年第3四半期
利用歴	あり	4 2%	3 1%	0 0%	3 1%	2 1%
	なし	67 27%	91 36%	87 37%	132 47%	83 35%
	不明	152 61%	136 54%	132 56%	125 45%	138 58%
	空欄	27 11%	20 8%	16 7%	20 7%	15 6%
	計	250	250	235	280	238

* 空欄：あり、なし、不明いずれにも記載がない場合

割合(%)は小数点第一位を四捨五入して記載

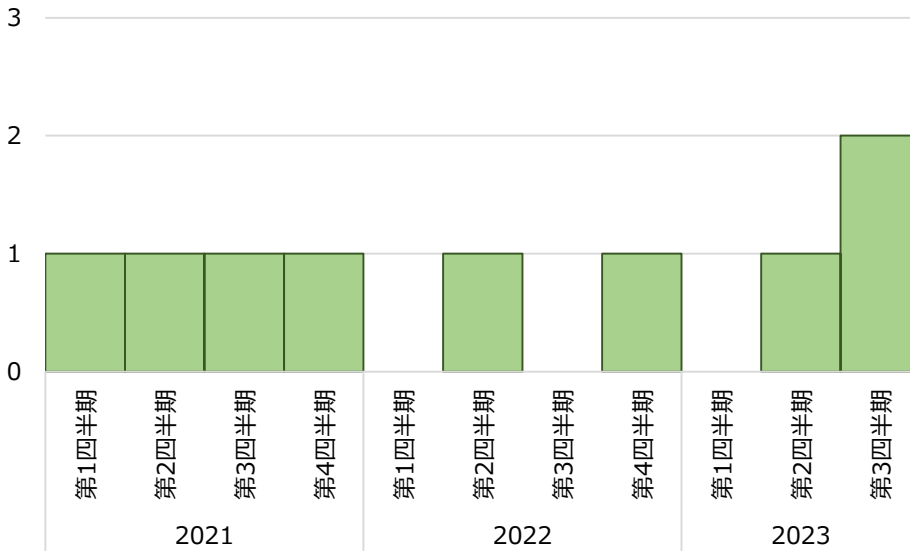
- 男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は30%前後(29~33%)で推移している。
- 女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例が50%台(55~58%)で推移している。
- 男性のうち性風俗産業利用歴が不明の報告例が20~30%台で推移している。梅毒に対し有効な対策を講ずるうえで、精度の高い疫学情報が不可欠であり、届出時の不明記載の割合を少しでも下げていくことが重要であると考えられる。

図6 男性における性的接触歴別、性風俗産業の利用歴別の報告数推移



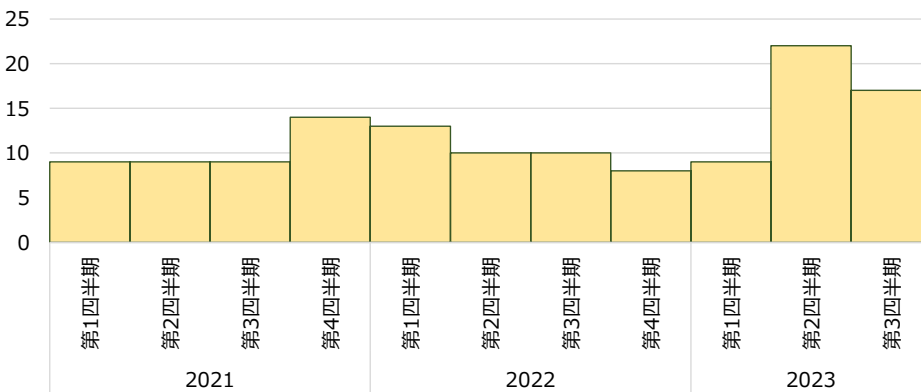
- 男性で異性間性的接触歴のある報告例のうち、性風俗産業利用歴のあるものが、2022年第2四半期から80例前後で推移している。利用歴なしは2023年第2四半期に80例まで増加したが第3四半期は減少した。
- 男性で同性間性的接触歴のある報告例のうち、性風俗産業利用歴のないものは、2022年第1四半期から増加傾向で推移したが、2023年は減少傾向で推移している。
- 男性で同性間性的接触歴のある報告例のうち、性風俗産業利用歴のある報告数および、利用歴不明の報告数は、一定の傾向は認められていない。

図7 先天梅毒の報告状況



- 2023年第3四半期に報告された病型が先天梅毒として報告されたのは2例で、2023年の先天梅毒累計は3例となっている。

図8 妊娠例の報告状況



- 2023年第3四半期に報告された妊娠例は17例で、2023年の妊娠例累計は48例となっている。2022年に報告された年間の妊娠例は41例で、そのうち第39週までに診断されたのは33例であったことから、2023年は前年を上回るペースで妊娠例が報告されている。

参考

大阪府感染症情報センター

大阪府内で報告された梅毒届出症例における妊娠例と先天梅毒の報告状況
(2017年～2022年)

<http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20220623152435.html>